所 属:東京工業大学 研究情報部 職 名:電子図書館グループ スタッフ

氏 名:津久井 祐子

った。

下記の通り報告いたします。			
期間	平成 20 年 11 月 10 日 ~ 平成 20 年 11 月 15 日		
出張目的	(1) Berlin 6 Open Access Conference 参加 (2) Goettingen State and University Library 視察		
用 務 先	(1) Industrie-Club e.V. Dusseldorf , University of Dusseldorf【ドイツ】 (2) Goettingen State and University Library【ドイツ】		
用務	<ul><li>(1) SCPJ プロジェクト2の広報およびヨーロッパにおけるオープンアクセス動向調査</li><li>(2) ドイツにおけるオープンアクセス動向調査</li></ul>		
出張內容	(1) Berlin 6 Open Access Conference 参加 ※公式ホームページ: http://www.berlin6.org/ ※プログラム: http://www.berlin6.org/downloads/Berlin6_Conference_Handbook.pdf		
	11月11日(火) ・会議参加受付後 Keynote 1, 2, Plenary Session 1, 2, 3 に出席。 Plenary Session 2 では非ヨーロッパ圏におけるオープンアクセス運動の 事例報告があり、なかでも 500 タイトルに上る中南米の学術誌の電子ジャーナル化に成功している SciELO プロジェクト(http://www.scielo.br/)の活動が目をひいた。 ・Conference Dinner にてヨーロッパを中心に各国の学術機関リポジトリ関係者と意見交換/情報収集。		
	11月12日(水) ・午前: Poster Session に出展し SCPJ プロジェクトの広報および、ヨーロッパ地域における学術論文等の著作権処理に関する情報を収集。日本同様非英語圏の国々では、各機関リポジトリ担当者が SEHRPA/RoMEO 非掲載出版者へ著作権ポリシーを問合せている状況が判明。さらに国内学会の著作権ポリシーを共同調査し、その結果をデータベース化し作業の効率化を図る SCPJ プロジェクト 2 に高い関心と評価が寄せられた。 ・午後: Plenary Session 4, 5, 6 に出席。高額かつ大規模な機器で計測されたファクトデータ等をオープンアクセス化することで研究を推進する「Reproducible Research」の事例報告が多数みられた。		
	11月13日 (木) ・Keynote 3, 4 および Plenary session 7, 8 に出席。 Plenary session 7 ではヨーロッパの公的機関から財政支援を受けた研究成果をオープンアクセスにすることの義務化について,規約の詳しい説明があ		

#### 出張内容

(2) Goettingen State and University Library 視察

※面会者: Dr. Birgit Shimidt (Project kopal), Margo Bargheer, M.A. (Electronic Publishing), Sabine Witt (Electronic Publishing), Dr. Heinz Fuchs (Subject Specialist)

#### 11月14日(金)

事前に送付した質問状をもとに意見を交換した。

リポジトリへの登録について

教員が研究者 DB に入力したデータ (研究費を算定する際に研究者 DB の業績件数が参照されるため教員は熱心に登録している) を元にメタデータを生成, さらに図書館員がメタデータを整理した上でリポジトリへ流している。

リポジトリのメタデータに対し、基本的に教員が全文ファイルを登録する。 全文ファイルの入手については、大学から教員全体へ登録を要請する top-down 方式と、図書館から個々の教員へ依頼する bottom-up 方式の双方か らアプローチしている。

・大学を挙げて Springer の Open Access Choice に合意した経緯について まず大学と Springer の間には、大学が Springer から数学分野の雑誌を多 数出版してきたことに由来する特別なコネクションが存在していた。

また大学側には、数年前雑誌の購読料が値上がりし多数の購読を中止した際、教員から論文が読めなくなったとのクレームが多く寄せられていたという背景があった。

そこで特別なコネクションを介し両者が協議した結果、現在の購読規模を維持することを条件に格安の Open Access Fee にて大学所属教員の論文を Open Access にすることが取り決められた。

Open Access Fee の財源は図書館の資料購入費から支出される。2008 年の現時点における大学所属教員の Springer 誌掲載論文件数は約50 件で, 財政上十分支払い可能である。

なおこのプロジェクトは2009年末まで試験的に行われるものである。

・大学出版会とリポジトリとの連携活動について

ゲッティンゲン大学出版会は、今年で発足して5年目となる図書館の一組織である。以前から図書館では博士論文、海外機関との資料交換のため製本作業を行っており、そのノウハウが活動のベースとなっている。

2007年は出版会から刊行された資料のうち,55冊がリポジトリに登録された。なお一年当たりの出版点数は50冊前後である。

主に商業出版ベースに乗らない類の図書を刊行しているため、著者はリポジトリ搭載により冊子の売り上げが減少することは心配しておらず、むしろ人の目に触れる機会が増加することを期待しているとのことである。

・ドイツ国内の出版者,学協会の公開許諾要件について

ドイツ版 SHERPA/RoMEO (http://www.dini.de/oap/)を使い許諾要件を確認している。これは表示言語がドイツ語になっているだけで、データの中身自体は英国の SHERPA/RoMEO と同一である。

## 出張成果

- (1) Berlin 6 Open Access Conference 参加 ヨーロッパを中心に世界の機関リポジトリ関係者へ, SCPJ プロジェクト 2 を PR することができた。またヨーロッパにおけるオープンアクセスの最新 動向を確認できた。
- (2) Goettingen State and University Library 視察 ドイツにおける実験的なオープンアクセスプロジェクトの実体を確認でき た。
- 【注】 ◆ 会議, 学会等に出席の場合は, 講演, 座長などの役割, 会議概要などを明記する。
  - ◆ 聴講のみの場合には、会議における研究動向、企業や大学の動向、注目すべき発表、日本からの参加者など、会議内容に関する、より詳細な内容を記入する(スペースが足りない場合は、適宜、ページを追加)。



2008.11.13 SCPJ project

# Activity to manage copyright policies concerning open access and self-archiving (SCPJ project)

## 1. Mission

We aim to facilitate to the registration of papers published in Japanese scholarly journals to IRs by providing information concerning open access and self-archiving for scholarly societies etc.

## 2. Outline

- ✓ Investigate Japanese scholarly societies' copyright policies about permission to upload papers to IRs and release results on SCPJ (Societies Copyright Policies in Japan) database.
- ✓ Provide information concerning open access and ask compliance to JACC (Japan Academic Association for Copyright Clearance) and scholarly societies.

## 3. Fund

SCPJ project is funded by NII (National Institute of Informatics) Institutional Repositories Program. In 2008, 68 partners and 21 projects are adopted from the public. Financial support will continue by 2009.

# 4. Activity

- (1) From 2006 to 2007
- ✓ Univ. of TSUKUBA(lead), CHIBA univ. and KOBE univ. start "SCPJ project" funded by NII Institutional Repositories Program from 2006 to 2007.
- ✓ Release SCPJ database based on the former investigation in 2005 by "digital contents project" of JANUL (Japan Association of National University Libraries).
- ✓ Investigate and reflect results in SCPJ database continuously and make promotions for getting permissions to upload contents to IRs from scholarly societies.
- ✓ Have a meeting with SHERPA staff at University of Nottingham in U.K.

## (2) From 2008 to 2009

- ✓ Start "SCPJ Project 2" funded by NII Institutional Repositories Program from 2008 to 2009. 6 universities and 1 institute participate in the project. Each participant takes charge such as development of the database, promotion, investigation etc.
- ✓ Continue and develop former activities and extend a target not only societies but also publishers.
- ✓ Build up international cooperation with some of the organizations deal with tasks about copyright policies, and construct an international portal site and release information concerning open access and self-archiving to staff of management IR, researchers and publishers.

# 5. SCPJ database [http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/scpj/welcome-e.html]

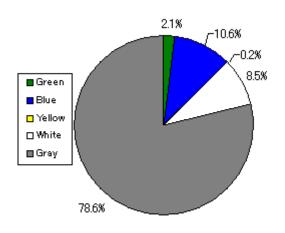


## (Search Results)



(Copyright Policy in Societies' Web Site)

## (2) Total number of registered societies



	Archiving Permission	Num ber of socie ties
Green	Author can archive both Pre-prints & Post-prints	38
Blue	Author can archive only Post-prints	192
Yellow	Author can archive only Pre-prints	4
White	Author can not archive	155
Gray	Under consideration	1,426

## 6. Future Task

- ✓ Consider the way in which collect policies and exchange opinion with scholarly societies more effective.
- ✓ Acquire continuous supports by various organizations.